



TOYAMA
Prefectural
University



富山県立大学

富山県立大学ニュース

平成31年3月発行
富山県立大学学生委員会

NO.122

4月、いよいよ看護学部が始動 ～第1期生受入に向けて準備も大詰め～



富山キャンパスイメージ図



教育棟の大きな吹き抜けスペース



基礎看護学実習室



老年・精神・在宅看護学実習室

CONTENTS

- 退職にあたり
- News Digest
- ドンドンマスマスコーナー
- 学生レポート
- CAMPUS NEWS など

学長退任のご挨拶

富山県立大学学長 石塚 勝



平成12年に富山県立大学に赴任して、19年が経ちました。その間、工学部助教授、教授、工学部長(2年)、学長(6年)を歴任させていただき、小職としては、充実した教員生活を送らせていただきました。皆さんに対して「感謝」の言葉しかありません。

この中で、学長の6年間は大きく変化したと感じます。平成27年の法人化もその準備段階が大変だったのですが、それ以降も、医薬品工学科の創設、知能ロボット工学科、環境・社会基盤工学科、電子・情報工学科の設置など工学部の拡充や、看護学部創設が続きました。さらに電子・情報工学科が発展し、数年後に電気・電子工学科と情報システム工学科が新設されますと、入学定員は法人化前の230名に対し、460名と倍増されます。この少子化の時代に、法人化以降の拡充がいかに大変な事業だったことがわかります。

この大事業を決断された石井富山県知事には大変感謝するとともに、県関係者、産業界の皆さんのご理解があったことは

大変ありがたく思っております。

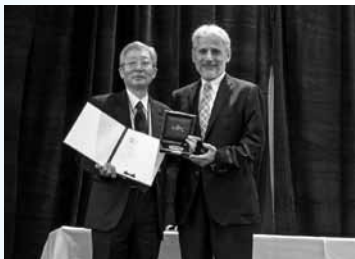
しかし、このような大改革が順調に進んでいる、もう一つの大きな理由は、大学の寺井理事長、歴代事務局長をはじめとする職員と学長・副学長をリーダーとする教員が一丸となって、カリキュラムの改正や優秀な教員の採用などベクトルを一つに合わせた結果であると思っています。実はこれが富山県立大学の旗であると感じています。

特に看護学部は小さいパイの中から60人近くの優秀な教員を確保する難事業ですが、これが順調に推移していることもその例です。学長として、このような姿をみせてもらい、まさしく、感謝のことばもありません。

しかし、拡充はまだ中途段階です。工学部も電気系と情報系の学科ができますし、看護学部は箱ができました。中身の充実はこれからです。とくに拡充によって、多くの新採用の先生方を迎え入れました。先生方一人お一人が優秀な教員であることはわかっているのですが、今までは皆さんは、異なった文化の大学や企業に在籍していました。是非このあとは、下山勲新学長のもと、富山県立大学ならではの新文化を醸成しながらベクトルを合わせてドンドンマスマス邁進してほしいと思います。長い間、本当にありがとうございました。



公立大学法人富山県立大学設立記念
除幕セレモニー(H27.4)



アランクラウス熱管理メダル賞授与式
(H30.8)



看護学部オープンキャンパス(H30.10)

退職のご挨拶



「定年退職にあたって」

副学長・工学部長 機械システム工学科 教授 森 孝男

平成7年4月に、助教授として本学に着任しました。着任当初は、忙しかった会社生活と違い、教員室から見る外の風景も静寂で、時間が止まっているように感じました。また、この頃は40代前半と若かったので、研究室の学生と一緒に球技大会のソフトボールに出場し、ホームランを打ったり、準優勝したりしました。そして、OB会等を通じて、卒業生との付き合いも続いています。卒業生の社会での活躍を耳にすると大変嬉しく思います。24年間、多くの学生と出会いました。大学という職場で、若い学生の皆さんと一緒に過ごせたことは何よりの思い出です。

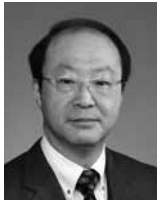
今後は、「毎日楽しく生きる」を目標に頑張りたいと思っています。富山県立大学はどんどん発展していきます。これからは、陰ながら応援していきたいと思っています。在学生の皆さんには、基礎学力の充実を望みます。教職員、企業の皆様をはじめとして多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。



「ドイツ語の誘い水」

教養教育 教授 中川 佳英

県立大の初代学長はゲーテを原書で読まれていた。このレベルの教養の持ち主は拙稿の題目など一笑に付すであろう。しかし普通のレベルの学生たちをドイツ語に親しませるためには、何らかの誘い水が必要である。と考えた私は着任当初、授業中にドイツの民謡や流行歌を流してみた。少なくとも授業の眠気を一時的に覚ます効果はあった。それから数年後、今度は映画の一場面を見せるようにした。なかでも『舞姫』で郷ひろみがドイツ語を流暢にしゃべっているのを観た学生たちは、その後しばらく発音に気を入れるようになった。(長続きはしなかったが。)今はドイツ語が英語以上に古代の文法を残していることを逆手に取り、折に触れて「お釈迦様の時代も格変化があった…」というような口上をつけて親近感を持たせようとしている。(現在確証できる最古のヨーロッパ語は梵語である。)しかしこれが実際に功を奏しているかどうかはわからない。



「材料力学と富山への感謝」

機械システム工学科 教授 川上 崇

2008年に機械システム工学科に着任し、材料力学（固体の強度）を担当してきました。材料力学は、機械や構造物の安全性や信頼性を司っており、安全・安心な社会を実現するために不可欠な技術です。材料力学の大切さや強度設計を体感してもらうよう努めてきました。幸いに卒業生の設計ミスによる事故は今日まで聞こえてきていません。子供の頃に神奈川では珍しかった鱒寿司、大学院の時に訪れたときの骨酒、富山に居を構えてからの刺身の美味しさが先ず思い浮かびます。また、富士山を見て育った移住者にとって立山連峰、取り分け剣岳の鮮烈な印象が挙げられます。

一般に、少子化や経済・技術力の地盤沈下などの逆風が吹いています。自ら考え、判断をしながら目標と目的を定め、なお一層活力ある教育・研究機関となられることを祈っております。最後に、教員生活を導き、支えてくれた教員や事務局、共に学んだ学生、企業や学会の仲間、妻まゆみに心より感謝します。



「退職にあたり」

環境・社会基盤工学科 教授 楠井 隆史

昭和57年（1982年）4月に県立大学の前身、富山県立技術短期大学衛生工学科に助手として着任以来、37年間勤務してきました。この間、短期大学部への専攻科設立、4年制の環境工学科開設、大学院前期・後期博士課程開設などに携わる機会を得たことは貴重な体験でした。また、平成19年には環境リテラシーを身につけた技術者を養成する環境教育プログラムが文科省の現代GPに採択され、プログラム推進に中心的に関わることでできた事も思い出深く、貴重な体験でした。「持続可能な開発」が問われる今日、この取り組みが本学の教育の特徴として継承されることを期待しております。

長年親しんできた環境工学科棟の取壊しが予定され、この時期に退職することには感慨深いものがありますが、在職中、大きな事故もなく無事に務めることができましたのも、教職員の皆様のご理解・ご協力の賜物と感謝を申し上げます。

最後に、富山県立大学の益々の発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。



「現場から学ぶ」

環境・社会基盤工学科 准教授 奥川 光治

本学の前身である富山県立技術短期大学衛生工学科に着任してから40年の時が過ぎようとしています。公害問題の解決に貢献したいとの思いでこの専門分野を選択しましたが、この間、公害から環境問題へ、さらに地球規模の環境問題、自然災害へと対象が広がり、学科名も衛生工学から環境工学あるいは環境を冠する名前へと変遷しています。学生の頃によく耳にした言葉に“現場から学ぶ”があります。大学の中の学問ではなく、現場に赴いて、公害・環境問題を現実に触れて理解することの重要性を説いた言葉です。現在ではインターネットを通じてリアルな映像が目に飛び込み、データも入手できるようになりましたが、学生の皆さんにはぜひフィールドに出て現象をよく観察し、自ら計測し、自らの感性で捉えてほしいと思います。

退職にあたり、多くの方々にお世話になったことに感謝申し上げます。

News Digest

富山県立大学秋季公開講座

10月20日(土)、11月17日(土)、24日(土)の3日間、本学大講義室において秋季公開講座を開催しました。今回は、機械システム工学科の教員が講師となり、『環境調和型ものづくりを支える先端技術』をテーマに講義を行いました。環境と真摯に向き合ったものづくりの先端技術を、皆様に紹介する貴重な機会となりました。県内各地から延べ283名が参加し、「人と環境に配慮した研究に興味を持った」など嬉しい感想をいただきました。



看護学部オープンキャンパス、開設プレイベントを開催！

10月21日(日)に、富山キャンパスで初となるオープンキャンパスと新設プレイベントを開催しました。

オープンキャンパスでは、県内外から高校生、保護者合わせて351名の参加があり、看護学部の概要説明や模擬講義、施設見学が行われ、本学への理解を深めました。

参加者からは、「4年間看護学をしっかりと学べることは魅力的」「設備が整っていて自分のやりたいことができそう」といった感想が寄せられました。

プレイベントでは、「看護学と工学の連携で変わる富山の未来」をテーマとした講演やミニ講座のほか、本学ダンスサークルのダンス、三遊亭良楽師匠による落語、Chikoさんと廣井謙次さんのミニライブ等が行われ、多くの方に参加いただきました。

富山県機電工業会による特別講義

今期、知能ロボット工学科において、一般社団法人富山県機電工業会による特別講義を開講しました。本講義は平成27年度から開講しており、今年度が4年度目となります。

富山県産業の強みであるアルミ、金型、工作機械、電気・電子部品、ソフトウェアの企業の第一線で活躍している技術者等によるご講義や工場見学を行いました。

10月22日(月)の講義では、富山県機電工業会の谷川 正人 会長(コーセル(株)代表取締役社長)を講師に迎え、富山県のものづくりの特徴や強みなどをご講義いただきました。



第3回 英語スピーチコンテスト

10月26日(金)、アイザック小杉文化ホール ラポール ひびきホールにおいて、「第3回 富山県立大学学長杯争奪 英語スピーチコンテスト 決勝」が開催されました。

【学部1年次生の部】Recitation部門

- 優勝 水上 侑 (医薬)
- 準優勝 岡崎 聖矢 (電情)
- 第3位 壽崎 聖 (機械)

【学部2～4年次生の部】Recitation部門

- 優勝 山川 舞 (医薬2年)
- 準優勝 金子 友香 (生物2年)

【学部2～4年次生の部】自由スピーチ部門

- 優勝 高田 明花 (医薬2年)

第29回 県大祭 開催!!

10月27日(土)、28日(日)に「第29回県大祭」が開催されました。

「BIGBANG」をテーマに、サークルによるステージライブや、手打ちそば・留学生の中華餃子といった模擬店等の様々な催しが行われました。

メインステージでは、催眠術ショーや「ベッキー」さんによるトークライブ等が行われ、大きな賑わいを見せました。学生はもちろん、地域の方々や子供達など大勢の方にご来場いただき、大盛況で終わりました。



第17回FD研修会

10月29日(月)に、FD研修会を開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みのことで、今回で17回目となりました。

今年度は、主体的な学びを引き出す授業方法や新教育プログラムの成果報告について発表いただき、研修会後行ったアンケートでは、高校での授業実践の取り組みや数学の学習指導要領改訂の情報共有が参考になったとの意見が多く得られました。



留学生交流会の実施

11月8日(木)に、「留学生交流会」を開催しました。平成27年より毎年開催し、今回で4回目となります。

今年は6ヶ国からの留学生が参加し、日本人学生と合わせて約40名の参加がありました。学生達は、英語や日本語を駆使し、お互いの国の文化や日本での生活などについて会話を楽しみました。

事後アンケートでは、「Spent a wonderful time!」「いろいろな国の人と話せてよい経験ができました。」といった感想が寄せられました。

田中耕一特任教授による特別授業

11月15日(木)に本学にて本学の特任教授・田中 耕一 先生 (㈱島津製作所シニアフェロー) による大学院の特別授業が開催されました。

今回の特別授業では、午前中に質量分析MSの基礎と膜タンパク質及び糖タンパク質の解析に関する講義 (参加者学生、教員80名)、午後は講義ではわからない部分を補うため、島津製作所の方々による実習 (参加者学生18名) を行いました。

学生からは、「田中先生と直接お話し、教えてもらうことが出来て、とても貴重な経験となりました。」「講演を聞くだけでなく、自分で機械に触れ実験をすることで理解が深まっていった。」などの感想が寄せられ、有意義な時間を過ごすことができました。



平成30年度 富山県立大学環境講演会

12月6日(木)、アイザック小杉文化ホール ラポールにおいて、「富山県立大学環境講演会」を開催しました。この講演会は、環境問題について学ぶことを目的としています。

今年度は、「2030年に皆さんに残したい世界」と題して、SDGパートナーズ有限会社 代表取締役CEO田瀬 和夫 氏にご講演いただきました。

持続可能な開発目標 (SDGs) について自治体等の取り組み事例を交えながら講演され、総勢261名が熱心に聞き入っていました。

大谷米太郎記念基金事業による大学院修学奨学金の支給について

大谷米太郎記念基金により平成27年度から実施している大学院修学奨学金について、去る1月23日(木)に平成30年度支給決定通知式が行われ、5名の大学院生に、寺井理事長から支給通知書が交付されました。

大谷米太郎記念基金は、本学の前身の県立大谷技術短期大学の開学に多大な貢献をされ、郷土愛の熱かった本県出身の実業家の大谷米太郎翁が出捐・設立された財団の残余資産をもととした基金です。翁 (故人) やご子孫の願いを踏まえ、優秀な人材を育成するための学生支援事業として、本学を優秀な成績で卒業し、本学大学院博士前期課程に進学した1年次生を対象に、年間授業料の半額に相当する奨学金を支給しています。

今回、奨学金を受けられた皆さんには、学生の模範として一層勉学に励まれ、将来、優秀な研究者や技術者として活躍されることを期待します。

本学も、学生の皆さんの励みとなるよう、今後とも本事業による支援を続けてまいります。



平成30年度後期 地域協働授業成果発表会

「地 (知) の拠点整備事業 (COC事業)」の取り組みとして実施している「地域協働授業」での成果を知っていただくため、1月31日(木)及び2月1日(金)に「地域協働授業成果発表会」を開催しました。地域課題の解決や子供の理科離れをテーマに計19グループがポスターセッション形式で発表し、学生、教員、地域関係者など約300名が参加しました。発表者と参加者による活発な意見交換や質疑応答が行われ、よい発表会となりました。

学生 レポート

読書のすすめ

平成30年度年間ベストリーダー(*) 坂東 志保 (医薬品工学科2年)

私は大学生になってから、図書室で本を借りる機会が以前よりも圧倒的に増えました。その目的はレポートの作成や講義の復習などのためです。その際には、できる限り多くの本に目を通すことを意識しています。一冊の文献のみに頼るのではなく、たくさん本を読むことで、より多くの情報が得られます。本を読めば読むほど、自分の無知さをいっそうに自覚し、嫌気がさすこともあります。しかし、それと同時に新しい知識を得たという満足感もあるので、読書の楽しさを改めて実感できます。

(*)本年度より、附属図書館では、年間で最も多く本を借りた学生を「年間ベストリーダー」として表彰します。平成30年度は4月～1月の10ヶ月間で、132冊を借りた坂東さんが年間ベストリーダーに選ばれました。

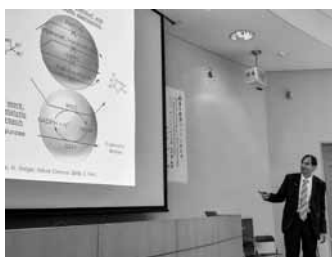


ドンドンマスマス！ 県大CAMPUS NOW！

このコーナーでは、本学の学科拡充・新設に伴うさまざまな取組みをお伝えします。

「くすりのシリコンバレー TOYAMA」創造計画への取組み

本学が参画する富山県の「くすりのシリコンバレー TOYAMA」創造計画が、内閣府の「平成30年度地方大学・地域産業創生交付金」の対象事業に採択されました。本計画により、本学ではトップレベルの研究者を国内外から招へいし、先端的な研究開発を進めるなど、県、富山大学、県内医薬品産業界等と連携し、富山県の中核的な産業である医薬品産業分野の研究開発や専門人材育成等に取り組み、医薬品産業の振興と若者の地元定着の促進を図ります。



トップレベル人材の招へい



サマースクールの様子

新学生会館 完成!!

平成30年度に整備を進めてきた新学生会館が、この3月に完成します。

木造2階建てで太閤池に隣接し、部室やホール、談話コーナーなどがあります。天井や床、壁には富山県産の木材を多く使用し、建物東側には眼下に太閤池を眺められる大きな窓を設けるなど、潤いと温もりのある趣となっています。

新会館の完成を受け、昭和45年築の現会館は約半世紀の役割を終え解体されます。学生の皆さんには新しい学生会館で学生生活を一層楽しんでいただきたいと思っています。



公式ウェブサイトをリニューアルしました

4月から工学部・看護学部の2学部体制となるのに合わせ、本学の公式ウェブサイトをリニューアルしました。新たに看護学部に関するページを設け、カリキュラムや講座紹介を行うなど、2学部となる本学の魅力を紹介しています。ぜひご覧ください。



本学教員等の受賞等について

受賞者	表彰の名称	表彰内容（論文名等）	受賞日
唐木 智明 准教授 (知能ロボット工学科)	Certificate of Appreciation (The 10th Japan and China Symposium on Ferroelectric Materials and Their Applications)	日中強誘電体応用会議の運営への貢献	2018年9月22日
清家 美帆 助教 (機械システム工学科)	Best Paper Award (The 11th Asia-Oceania Symposium on Fire Science and Technology)	Model-Scale Fire Experiments and Simulations of a Tunnel with Point-Extraction Ventilation (共著論文での受賞)	2018年10月24日
森重 健一 講師 (知能ロボット工学科)	日本神経回路学会 最優秀研究賞	視標運動追跡課題遂行中の皮質電流を用いた時系列信号の再構成	2018年10月27日
上村 一貴 講師 (教養教育)	第33回東海北陸理学療法学会 大会会長賞	アクティブ・ラーニングを用いた健康教育介入が身体機能・生活習慣およびセルフエフィカシーに及ぼす影響 -高齢者におけるランダム化比較試験-	2018年10月27日
伊東 聡 准教授 (知能ロボット工学科)	精密工学会北陸信越支部 奨励賞	Uncertainty analysis of slot die coater gap width measurement by using a shear mode microprobing system	2018年11月10日
本吉 達郎 講師 (知能ロボット工学科)	計測自動制御学会2018年システム・情報部門 部門技術賞	Formal Concept Analysis of Programming Operation using Tangible Tool	2018年11月27日
古澤 之裕 講師 (教養教育)	Certificate of Excellence in Reviewing Award (SPANDIDOS PUBLICATIONS)	His important contribution to the quality of the publication Molecular Medicine Reports on 30/10/2018 and 12/11/2018	2018年12月17日
上村 一貴 講師 (教養教育)	公益財団法人明治安田厚生事業団 第33回若手研究者のための健康科学研究助成 優秀賞	アクティブ・ラーニングを用いた教育介入による運動の促進が高齢者のメンタルヘルスに及ぼす影響 -ランダム化比較試験-	2018年12月14日
森川 大輔 講師 (知能ロボット工学科)	日本音響学会 独創研究奨励賞 板倉記念	両耳間時間差と両耳間音圧差の変化による音像の分離統合に関する研究	2019年3月6日

本学学生等の受賞等について

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
二永 貴	博士前期課程生物工学専攻2年	2018年度日本農芸化学会中部支部第183回例会 支部学術奨励賞	2018年9月	教授 加藤 康夫 准教授 野村 泰治
山下 綾菜	博士前期課程生物工学専攻1年	2018年度 日本木材学会中部支部 ポスター優秀発表賞	2018年10月	教授 占部 大介 准教授 岸本 崇生
山下 綾菜	博士前期課程生物工学専攻1年	Student Poster Competition Honorable Mention賞 (2018 SWST/JWRS International Convention (日米木質科学国際会議2018))	2018年11月	教授 占部 大介 准教授 岸本 崇生
堤 大輔	知能ロボット工学科4年	精密工学会北陸信越支部学術講演会 ベストプレゼンテーション賞	2018年11月	准教授 伊東 聡
井原 潤	博士前期課程環境工学専攻2年	(公社)第57回日本地すべり学会研究発表会 若手優秀発表賞 ポスター発表部門	2018年11月	准教授 古谷 元
山崎 稜太	博士前期課程環境工学専攻1年	(公社)第57回日本地すべり学会研究発表会 若手優秀発表賞 ポスター発表部門	2018年11月	准教授 古谷 元
中村龍一郎 小栗 悠兵 森 俊樹 鳥居 佳紘 松野 晃佑	博士前期課程情報システム工学専攻1年 博士前期課程情報システム工学専攻1年 博士前期課程情報システム工学専攻1年 電子・情報工学科4年 電子・情報工学科4年	第5回「G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール」北陸総合通信局長賞	2018年12月	准教授 石坂 圭吾
富田 匠	博士前期課程情報システム工学専攻1年	平成30年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2019年2月	教授 松田 敏弘
瀧山 竣平 的場 裕也	環境・社会基盤工学科3年	射水市 いみず学生アイデアコンテスト 最優秀賞	2019年2月	准教授 星川 圭介
有賀 正和	知能ロボット工学科2年	富山県機電工業会「ものづくりinとやま」最優秀賞	2019年2月	教授 神谷 和秀 准教授 伊東 聡
角川 勇貴	知能ロボット工学科4年	富山県機電工業会「ものづくりinとやま」奨励賞	2019年2月	教授 神谷 和秀 准教授 伊東 聡
大谷 勇乃	知能ロボット工学科4年	富山県機電工業会「ものづくりinとやま」奨励賞	2019年2月	教授 神谷 和秀 准教授 伊東 聡

INFORMATION

富山県立大学県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)

～平成31年度前期受講生募集～

本学では、地域の方々に正規の授業を公開する県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)を実施しています。簡単な手続きとリーズナブルな受講料で、教養教育科目や専門科目(工学部)など約90科目のバラエティに富んだ授業を学生と一緒に受講いただけます。

- ◆募集期間◆ 平成31年3月13日(水)～3月29日(金)
- ◆授業期間◆ 平成31年4月8日(月)～8月13日(火)
- ◆公開科目◆ 約90科目 一般教養科目…社会学Ⅰ、心理学Ⅰ、数学Ⅰなど
工学部専門科目…機械加工学、ロボット工学基礎、ゲノム工学など
- ◆受講料◆ 1科目5,000円(複数科目の受講可能) ※研究協力会員は半額助成となります。
- ◆お申込み・お問い合わせ先◆ **詳しくは下記大学HPをご確認ください。**

富山県立大学地域連携センター(受講生窓口)

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL: 0766-56-0604/FAX: 0766-56-0391/E-mail: openuniv@pu-toyama.ac.jp

URL: https://www.pu-toyama.ac.jp/regional_alliances/lifelong_learning/open_university/

学位記授与式

平成30年度の学位記授与式をアイザック小杉文化ホールラポールにて執り行います。また、授与式後、本学大谷講堂にて後援会及び卒業生一同による「卒業記念・謝恩パーティー」を行います。

【授与式】

- ◆日時: 平成31年3月16日(土) 午前10時～
- ◆会場: アイザック小杉文化ホール ラポール(射水市戸破1500番地)
※今回、大学学歌「明日を拓く」を披露します。

【卒業記念・謝恩パーティー】

- ◆日時: 平成31年3月16日(土) 午後0時45分(予定)～
- ◆会場: 本学大谷講堂

SCHEDULE 平成30~31年度

	射水キャンパス	富山キャンパス
3月	8日(金) 一般入試(前期日程)合格発表 16日(土) 学位記授与式 22日(金) 一般入試(後期日程)合格発表	4日(月) 大学院工学研究科入試
4月	4日(木) 入学式	3日(水)~5日(金) オリエンテーション 3日(水)~5日(金) 学生定期健康診断 8日(月) 前期授業開始 24日(水) 学生定期健康診断
5月	24日(金) 学生球技大会 27日(月) 研究協力会総会	

CAMPUS NOTE

ダンスサークル



こんにちは、ダンスサークル代表の佐藤です。
私たち、ダンスサークルは5年目になり、部員数が50人を超えました。

その中の9割が初心者ですが、私たちと共にダンスを楽しむことで、ダンスをより好きになると思います!! 普段の練習では、みんなで和気藹々と踊っており、様々なジャンルに分かれて練習しています。例えば、Hip Hop, Lock, Pop, Krump, Girls などがあります。また、学年ごとに分かれて踊ったり、自分たちでグループをつくらしています。去年の活動では、新設される看護学部オープンキャンパスでのステージや富山で開催されたねんりんピック、学校祭で披露させていただきました。去年の学校祭では、一昨年より30分も発表時間が増えました。短期間での練習でも、真剣に取り組むことで完成度の高い作品に仕上げることができました。今年もよりパワーアップしていきたいと思っているので「その一員になりたい!!」「一緒にダンスを楽しみたい」という方は気軽に連絡してください。(Twitter: @TPUdance Instagram: tpu.dance)

(電子・情報工学科2年 佐藤 祐一)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。

編集後記

今年の富山は、昨年の大雪と比べると驚くほど雪の少ない冬でしたが、北海道や北米の極渦による極寒やオーストラリアの酷暑のニュースを見ると地球温暖化の影響を考えずにはいられません。皆さんのお考えでしょうか。雪の季節が終わる頃、大学はいよいよ入試と卒業のシーズンを迎えます。今年度末には、石塚学長、森副学長など長年に亘って本学に貢献された諸先生方が退職されます。先生方のこれまでのご尽力に改めて感謝申し上げます。

さて、新年度に向けての入試情報ですが、今年も多数の学生が本学を受験しました。志願者は工学部では、前期後期併せて1,149名(志願倍率 前期 4.0倍、後期 7.6倍)、新設の看護学部は 676名(志願倍率 前期 6.7倍、後期 25.9倍)となりました。工学部は昨年の受験者数が1,514名でしたから、昨年と比較すれば受験者数が大幅に減った様に見えますが、概ね例年並みです。最近のIT技術の著しい進展の影響かも知れませんが、工学部では電子・情報系の人気が高いようです。また看護学部は、初年度の影響もあり多くの志願者が集まり、前期では第1段階選抜を実施しました。毎年、一喜一憂しながら受験者数の推移を見守っている次第ですが、本学は教職員の努力もあり、毎年多くの入学希望者がいます。この点は実にありがたいことです。しかし、日本の人口動態を見れば今後の18才人口の減少は顕著で、これは避けがたい事実です。将来、地方私立大学のみならず国公立大学も定員減や統合が必要になるといわれています。しかし、これからの日本は多数の外国人労働者や留学生を迎え入れます。また、人生100年時代ともいわれ、個人の平均寿命は伸びています。国籍、年齢、性別に囚われない多様な社会を考えると、外国人のためのシステムティックな日本語教育や職業教育、社会人の生涯教育やリカレント教育が益々必要となって来るように思います。産業構造が高度化し、技術が著しく進展しているなかで、生涯に亘って自らの職業能力を高め、新しい技術に対応するには、キャリアアップのための教育やリカレント教育が必要です。現有の大学の教育資源を減らすことよりも、こうした教育に振り向けに行くべくだと考えます。これからは、青年期の限られた時期の学歴よりも生涯にわたる個人の経験値や能力が評価される時代となるのではないのでしょうか。

(学生部長 伊藤 伸哉)